

『観光文化』の編集方針と誌面の刷新について

公益財団法人日本交通公社 会長

志賀 典人

日頃より、当財団の活動にご理解・ご協力を賜り、御礼申し上げます。また、当財団機関誌『観光文化』をご愛読いただき、ありがとうございます。

このたび、当誌の内容・構成の見直しによる編集方針の刷新を行い、本号より新たな誌面で発行することとなりました。また、発行を年四回(季刊)に改めることとなりましたので、併せてご案内申し上げます。

『観光文化』の歴史は古く、一九七六年(昭和五十二年)十二月に創刊、第1号が発行されました。以降、今年で三十六年目を迎え、本号で215号を数えております。その間、さまざまな分野の専門家の方々にご寄稿いただくとともに、多くの方から内容やテーマ等を中心にご意見やご感想を賜りました。この場を借りて感謝の意を表する次第です。

これまでの『観光文化』は、主にそれぞれの時代における観光のトピックスを特集テーマに据え、各テーマに造詣の深い方々に執筆をお願いする形でまとめてまいりました。おかげさまで、多様で深奥な知見が凝縮された冊子として高い評価をいただいております。文字通りわが国の観光文化の発展に寄与してきたものと自負しております。

今回の刷新では、この理念を継承しつつも、これまでの皆様からのご指導により蓄積されてきました当財団の知見に基づく論考・提言を発表する場として位置付ける方針といたしました。具体的には、当財団研究員の研究・事業活動を基に特集テーマを設定し、研究員自らが執筆に当たるとともに、併せて外部専門家の方々からご寄稿をいただき、わが国の観光文化発展のための問題提起、情報提供、交流の場となるような誌面づくりを行ってまいりたいと考えております。このほか、公益財団法人としての公益活動を幅広くお伝えすることを目的に、研究成果や活動内容の紹介、「旅の図書館」からのご案内の充実等を図ってまいります。

折しも、創業百周年および公益財団法人への移行という節目での刷新となりましたが、今後わが国の観光文化の振興を目指し、『観光文化』のますますの内容充実および価値向上に努める所存です。ぜひとも、刷新第一号となる本号に対し、幅広いご意見・ご感想を賜れば幸いです。

引き続き、『観光文化』をご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

(しが のりひと)